

令和2年度第2回八千代市環境審議会会議録

|               |  |    |                          |
|---------------|--|----|--------------------------|
| 日時            | 令和2年11月17日(火)<br>午後1時30分～午後3時52分   | 場所 | 八千代市役所 別館<br>2階 第1・第2会議室 |
| 議題            | 1 諮問事項<br>・八千代市第3次環境保全計画について<br>2 報告事項<br>3 その他  |    |                          |
| 出席者           | 小倉 久子 (学識経験者：元千葉県環境研究センター水質環境研究室長)<br>谷合 哲行 (学識経験者：千葉工業大学先進工学部教育センター准教授)<br>楠田 隆 (学識経験者：元千葉県環境研究センター地質環境研究室長)<br>大味 実枝子 (事業者代表：八千代商工会議所女性会理事)<br>高橋 聡 (事業者代表：八千代市工場協議会会員)<br>矢野 良明 (市民)<br>近野 俊幸 (市民) <p style="text-align: right;">以上7名</p> |    |                          |
| 公開又は<br>非公開の別 | 公開   |    |                          |
| 傍聴者           | 傍聴2名(定員3名)   |    |                          |
| 事務局           | 石川経済環境部長<br>環境保全課 8名<br>(小林課長, 日下主査, 竹内主査, 石崎主査, 原谷主査補, 横井主任技師, 大山主任主事, 湯川主事)<br><br>株式会社オリエンタルコンサルタンツ 4名<br>(梶原氏, 林氏, 渡津氏, 江川氏)   |    |                          |

日下主査：会議成立の報告・欠席委員の報告・マイクシステムの説明

石川経済環境部長：挨拶

小倉議長：会議録は、いつものように要点記録方式により作成をお願いしてよろしいか。

異議なしの声あり

小倉議長：ありがとうございます。それから会議録の署名人については、事前の打ち合わせでは矢野委員と大味委員と伺っている。大味委員は遅れているが、ご内諾はいただいているため、矢野委員と大味委員にお願いしたい。  
それでは議事に入る。最初に諮問事項の八千代市第3次環境保全計画について諮問について事務局より説明願う。

諮問の説明

小倉議長：このような諮問（別添参照）を市長からこの会にいただいている。作成を始めた第3次環境保全計画について説明願う。

オリエンタル：

◆資料「八千代市第2次環境保全計画改訂に向けた第2回環境審議会」に沿って説明  
・今回は八千代市の特性・アンケート調査結果を含めて課題まで整理をして説明。目標から最終的な将来像等々については、次回説明・検討させていただく。

竹内主査：資料1「八千代市新環境保全計画・地球温暖化対策実行計画の策定に向けた現行計画の実施状況について」により現行計画の実施状況を中心に説明させていただく。

小倉議長：今、説明いただいた部分について質問願う。

楠田委員：「重点プロジェクトの実施結果・課題」の説明は、前にも聞いたかもしれないが、浄化装置が故障して浄化対策を断念したとなっているが、これは断念した後は何もしないのか。汚染の拡大状況がどうなっているのか、縮小しているのかを把握されているといった表現が出てこないのか。断念したというだけでいいのかと心配である。

小倉議長：事務局から、回答いただけるか。楠田さんの話は資料の12ページの「重点プ

プロジェクトの実施結果、課題」の2つ目のビオトーププロジェクトが中断されたということだと思うが、これについては地下水の汚染の状況というよりも、装置が故障したことで、ビオトープのプロジェクトがもう水を供給することができなくなってしまったので、中断せざるを得ず終わっているかと思う。このことは、以前の当審議会の場合でも合意が得られていたと記憶している。

楠田委員：装置が故障したからビオトープ事業をやめるという表現か。

小倉議長：浄化するのはもちろんだが、その処理水をビオトープとして活用するというのが目的の事業だったと思う。

小林課長：八千代市内の汚染された地区があるが、その中で汚染された地下水をくみ上げて、その水を水路に流しながら生き物が住めるようなビオトープを目指そうというのを当時プロジェクトで目指していた。

平成30年度に装置がうまく稼動しないのと、故障が発生してしまったことで、とりあえず中断・休止をしていた。

処理施設があった所は地形上、高台にあり、下流に谷津田、水田が広がっている。その浄化していた土地から湧水が下流の谷津田のほうに実際流れ込んでいる。水がそちらにかなり集まってきているので、低い部分の湧水については現在も浄化を進めている。例えば12ページの書き方ではビオトープの整備について実際は(装置の)故障で難しくなったが、その湧水については今後も浄化に向けて整備や対策を行う。

小倉議長：12ページの「主な実施結果と課題(案)」に書かれているのは②のことだけか。①の地下水汚染対策は、その下流の湧水に対して浄化を行っているので、浄化対策は実施しているということでしょうか。

小林課長：そうです。平成29年度に装置が故障して、結果的に平成30年度に廃止してしまっているが、①の地下水汚染対策としては現在も引き続き浄化対策として続けている。

小倉議長：それで、楠田委員の質問に答えたことになるか。

楠田委員：「浄化対策を断念し」と書いてあるので、ここで言うのは浄化しなきゃいけない地下水汚染を浄化するという意味だと思うが、それを断念したというふうに読める。今おっしゃっていたのは、現場の下流側に湧水があって、それについては様子を見てこれからも浄化しようという解釈でいいか。

小林課長：そうです。湧水に関しては、対策しているということになる、その理解でよい。

オリエンタル：指摘のあったとおり、誤解のないような表現、それから「故障したために断念した」というような、後ろ向きにとらえられるような表現を訂正させていただきたい。

小倉議長：お願いします。このビオトープの故障で整備不可という部分については、その年の環境審議会で皆さんの了解は得られているので、正確にお願いしたい。

大味委員：今の質問と同じような関係だが、「現行計画の実施状況について」、11ページ上の大気汚染のところは、今後の取り組む課題で測定機器の一部が故障しており復旧のめどが立っていないとなっている。これは先ほどの経過報告でも大気汚染が改善されていないという報告であったが、故障したままなのか。

小倉議長：事務局お願いします。

石崎主査：故障している機器はS PMという浮遊粒子状物質を測る機械と酸性雨を測る機械で、復旧のめどが立ってない。酸性雨については基準がないこと、八千代市内において酸性雨は確認されてはいるが、実際の被害が確認されていないこともあり、今後の復旧のめどが立ってない状況である。

S PM計については、大気汚染防止法で県に測定義務があり、近年では環境基準を達成するような状況であることから、S PM計についても機器の更新が難しい状況になっている。他に光化学オキシダント計や窒素酸化物計もあり、現状故障はしてないが、かなり老朽化が進んでいるような状況。こちらについても機器の更新が現状では難しい状況にある。

小倉議長：それは市の独自というか、県ではなく市で設置して測定すべき項目なのか。

石崎主査：市内には県が高津と村上の2か所で測定を続けている。それ以外に八千代市独自で、米本と勝田台の2か所で測定しているが、市の方の機械が壊れてしまっている状況である。

大味委員：県のデータがあれば市は必要ないということか。こういうふうに書かれると、先ほどと同じだが、なぜ直さないのかと読めてしまう。

小倉議長：課題として正直に書いているのはいいことだが、その根本的なことと補足的なことの優先順位を考えて書かないといけない。大味さんがおっしゃるように、普通に読んだら、大気汚染は問題になっているのに測定できていないと由々し

き事態となってしまう。

市や県の内部的な課題と、市民に対しての課題で書き分けたほうがいいのかも  
れない。

オリエンタル：修正させていただく。

小倉議長：もともと課題とは、こういう実態があつて、その原因となるようなことを改善  
すれば良くなるという部分を取り上げ、これを重点的に対策していこうとする  
ことだと思う。

その辺を整理して、何のために課題を挙げるのかというところは見直してい  
ただければいいかと思う。

オリエンタル：わかりました。

楠田委員：確認だが、測定局については県で設置しているものと市で設置しているもの  
があり、それは県と市それぞれが機能して、全体として把握しているということ  
か。

石崎主査：大気の測定局については、県で人口等を勘案して設置基数が定められており、  
それに基づいて計画的に設置している。それ以外に補完的に市独自で測定して  
いる。

ただ米本測定局については、県や国にも報告している測定局になっている。測  
定項目については県のほうが多く、SPM計など八千代市で測定していないも  
のも県は測定している。

小倉議長：よろしいでしょうか、大味さん。

大味委員：はい。

矢野委員：別件になるが、資料1の11ページの騒音・振動のところ。騒音に対する苦情  
件数は近年増加傾向にあるということを記述されているが、この審議会におい  
ては、あまりこの騒音とかについては審議してこなかったように思う。現状は  
どういうところに問題点、解決できない、課題とするようなところがあるのか。

石崎主査：カラー版の資料の7ページに内訳がある。平成30年度の騒音の内訳で、年  
によって構成は多少異なるが、おおむね建設作業に伴う苦情が多い。

特定建設作業は全国一律の基準になっていて、工場の基準と比べると一時的な  
もののため、最低限度の基準になっているので緩い基準値になっている。そう

ということもあり、解体工事などで音とか揺れを感じておられるけれども、なかなか指導を厳しくするのが難しい現状にある。

矢野委員：ということは建設中の時だけということで、指導もしにくいというようなところか。

小倉議長：それでよろしいですね。

石崎主査：苦情があったら話には行くが、その場ですぐ工事をストップさせるというより、なるべく音を下げて作業をすとか、一時的にストップしてもらい、また再開をするというような、時間を置きながら少しずつ工事をするようなことでお願いしている。

小倉議長：他にいかがでしょうか。

近野委員：騒音のところで、羽田空港D滑走路ができてから着陸する飛行機は八千代市上空を通っていくような気がするが、あまり苦情は出てこないのか。

石崎主査：羽田空港の航空機については、八千代市上空を飛んでいるが、苦情件数としてはそんなに多くなく、毎年1人か2人ぐらいとなっている。

大味委員：市街地の緑化だが、資料1の10ページ。地球温暖化対策の(2)の②、この頃、私の家の前で林みたいになっていた場所もすっかり木がなくなってしまった。多分住宅地になると思うが、何とか残してもらえないのかなど。ここに書かれているように、その宅地を持っている方との協定というようにあるが、市が購入するわけにいかないのか。何か対策を取っていただけるといいかなという気はする。

このアンケートでも、緑が多く川も流れていて、とてもいい街、という結果になっているが、だんだん緑がなくなっていくような気がする。

小倉議長：事務局に願います。

オリエンタル：今の意見は非常に貴重なご意見だと思う。これから施策の検討に入っていく中で、事務局と調整の上で答えを出していくが、昨今、環境・経済・社会の統合的向上と言っており、環境と社会面だけでなく、環境と経済だけでもないということで、両方総合的に向上しないと意味がない。特に環境省等もそう言っているので、そういった提案を今後取りまとめていけたらと思っている。

小倉議長：今のお答えのとおりだと思ふ。今ある規制などで強制的に木を切らせないとかはできないと思ふ。でも、やっぱり緑は残したい、大事だよねという市民の思いを形にして、これからの八千代市を良くしていくというのが、この環境保全計画を作る目的だと思ふので、そういう意見をどんどん出してほしい。

私から、評価のところでは◎と○があり、きちんと成果が出ているというものが◎になっている。数値目標がある場合には、目標達成したということで◎は付けやすいが、数値目標がないものをどう評価するかというのが非常に難しいと思ふ。◎が付いているもの、例えば太陽光の発電のパネルを何基設置するという目標が達成したということでも、その達成によってCO<sub>2</sub>がどのぐらい削減されたか、その最終的な効果がでないとなかなか◎にはならないと思ふ。難しいとは思ふが、数値目標を達成しただけで満足してしまわないで、その真のゴールを目指して色々対策を進めていただけたらいいと思ふ。

それから数値目標がないものは○にしかならない。いい例が啓発事業の部分になるが、例えば「市の広報を発行しています」は○になるが、発行したけれども、どのぐらい読んでもらったかどうかはまた別問題。今回のアンケート調査の結果からも、啓発を市としては一生懸命やっているが、それを受け取る市民の方は遠い世界の話のように受け取っている。そのギャップをどのように埋めていくかを、今の評価の仕方ではできない。そういうところをどのように今後進めていって、実効を表す工夫はぜひお願いしたい。すぐにこうするという具体的なものは難しいと思ふが、そのようなことを心に留めておいていただければありがたいと思ふ。

近野委員：苦情でみると、騒音と悪臭が抜きん出て多い。評価一覧を見ると、悪臭のところは○がついているが、悪臭については、市が苦情対応を実施されたからか。具体的な成果が見えにくいというふうに評価しているが、引き続き苦情が多いことをみると解決していないということではないか。

石崎主査：資料1の5ページのところかと思ふが、苦情があり注意や指導などの対応は行っているけれども評価や成果が見えにくいということで、○という評価をしている。苦情が減らないということもある。野外焼却がこの平成30年度の内訳の中でも多い。野外焼却についても、廃棄物関係の法律で禁止をされているものについてはクリーン推進課で厳しく取り締まりができるが、それ以外の農業に伴うものや法律適用外のもの等の苦情が環境保全課に寄せられて対応しているが、なかなか止めさせることが難しい。

近野委員：騒音とか悪臭に関する問題意識からすると同じ△になるような気がする。騒音・振動は全部△がついている。

石崎主査：成果については、○なのか△なのかもう一度調整していきたい。

小倉議長：騒音や悪臭は、基準値とその周辺の住民の方の受ける被害感にずれがあって、行政でできることは基準値を守らせるというところまでしか要求できない。感覚公害というのは、被害を受ける方の被害の評価の大きさと実際の法律で規制できるというレベルとの差が大きいのではないかと思う。  
資料2のアンケートについて、これから説明いただけるのか。

オリエンタル：市民・事業者アンケート結果をパワーポイントと資料2「八千代市第3次環境保全計画・地球温暖化対策実行計画の策定に向けた市民・事業者アンケート調査結果について」を使い、説明をさせていただく。

◆資料2「八千代市第3次環境保全計画・地球温暖化対策実行計画の策定に向けた市民・事業者アンケート調査結果について」に沿って説明。

小倉議長：では、質問・意見を願う。

私から確認であるが、説明中に前回アンケートの「前回」という言葉が出てきたが、前回についての説明がなく、資料にもなかったと思うが・・・。

オリエンタル：「前回アンケート」は、資料2の8ページに参考として掲載している。現行計画策定時のアンケート結果で、10年前に同じように市民・事業者アンケートを実施しており、それと比べてどうだったかの比較をコメントさせていただいた。

小倉議長：8ページには1つだけ例として書かれているが、設問も全く同じアンケートを今回行ったのか。

オリエンタル：質問項目に関しては全く同じ項目もあるが、例えば気候変動の質問を新たに加え、省エネ設備に関しては今回地球温暖化対策の区域全体の計画も立て、前回にはない質問も加えている。

小倉議長：今回のアンケートの特徴というか、どこかで今の新しい視点を加えたということか。そういうことはとても大事だと思うので、そういう説明もどこかにあるといいと思った。

谷合委員：24ページのスライド（市の環境課題）を見ていると、大変大きなキーワード「エネルギー」が抜け落ちている。これまでこの審議会の中でも、省エネ、再生可能エネルギー、廃棄物の有効利用などの話をずっとしてきた。ところが、

この中にエネルギーという単語は一言も出てこない。一体何をどうしようとしているのかが大変疑問で、どうするのかというのが大きい質問である。

谷合委員：また、対策の中にLEDが出ていない。これだけ自動車のEV化が進んでいるのにEVの話も1つも出てこない。エネルギーと環境が大きく繋がらなくてはならない視点だが、今のこの中には大変欠落している部分と思っている。

小倉議長：「エネルギー」という文字はあるべきと、私も思う。

谷合委員：「第2次保全計画後期計画の3章及び5章見直し版」では、冒頭の2ページの中に、かなりしっかりエネルギーについてやることが謳われているし、再エネの導入、省エネの話が入っていた。それはこのくらいの規模の地方都市としてはかなりしっかり取り組んでいこうという姿勢が見えて、やる気があるなどというのが見えたが、今のこの話の中にそれがないのが大変残念。

オリエンタル：例えば、資料1（現行計画の実施状況）の2ページの、市の温室効果ガス排出削減状況や、2ページの真ん中の家庭業務部門での高効率・省エネ機器の導入・エネルギーの消費などで◎を付けている。そして、家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量は削減傾向にあるので、課題としては挙げていなかった。ただ、今回、市民のアンケートでも省エネ設備の導入状況について質問しているが、ご指摘のとおり、LED照明等は非常に導入が進んでいるものの、電気自動車やそれ以外の省エネ設備というところは導入が進んでいない。こちらに関しては地球温暖化対策実行計画の方の施策で課題として考えていく項目と考えている。

小倉議長：数値目標を達成しているということで安心してしまっただけで、2050年に本当のゴールが達成できるのかということだ。意地悪な言い方をすれば、目標を低く出せばいくらでも◎は付けられる。それで◎をもらうことを優先して、2050年に本当にゼロになるのかということ。だから、ここの評価が◎というのは、書かない理由にはならない。その辺は履き違えないでいただきたい。

オリエンタル：そのとおりだと思う。資料の23ページ、市の環境課題抽出手順を書いているところで、課題を積み上げてクリアしても現状を改善するに過ぎない。

小倉議長：そうです。将来は別物。

オリエンタル：23ページの表にある「良い点・誇れる点」を更に伸ばし、最終的な将来像がどこにあるから何をすべきかが重要。単純にエネルギーだけではなく、エネルギーと農業のセッションの話とかの最新動向を踏まえ、これからやらなけ

ればいけない課題を表現し直したいと思う。先ほどの話でも、課題を現状の問題点ということでまとめ過ぎていたので、課題をこれからどう取り組むものなのかということで今一度整理したい。

小倉議長：そこが一番大事なところだと思う。また、水循環という視点が全く見えてこない。特に印旛沼流域である八千代市においては、水循環が重要だが、水質改善だけになっているのは時代遅れ。グリーンインフラも同様。もう1つ、もう「ISO14001」の時代ではない。SDGsをぜひ前面に出していただきたいというのが、とりあえずの注文である。

オリエンタル：特にSDGsの話については、SDGsの3つのキーワードである Society 5.0（ソサエティ5.0）、地球地域循環共生圏、次世代育成とジェンダーがあって、それによってローカルSDGs、つまり自治体の持続可能な社会形成というのが築き上げられていくと述べられている。そこを踏まえた課題認識、これまでの計画はアンケートや現状認識（評価）からまとめているものが多い。ここに最新動向をいかに取り入れるか。この八千代市が先進的な環境の取組ができる環境基本方針、計画を作るかというためにも、今一度見直していく。

小倉議長：今までの計画の修正ということではなく、視点を全く変えるというか、これからの将来に向けて考え方を抜本的に変える時期なのではないかと思う。

矢野委員：SDGsはなるべく取り入れたという形で進めていただければと思う。ただ、今回の計画はこれから大体10年ぐらいを目途として計画を立てるが、SDGsにしろ、地球温暖化のCO<sub>2</sub>の排出にしろ、2030年が一応の通過ゴール点になっている。これから国も他の国際的な流れも、それに向けて色々な形で具体的に出てくると思うので、ここでそれに対応できるような計画にもしたい。ひょっとしたら、途中で見直しというか、新たな項目も入ってくるのかと考えている。具体的に私も説明できないが、そういうことになるのではないかと思う。見直ししなければならない目標も新たに出てくる可能性もある。

小倉議長：次の検討時期では間に合わないこともあると思うので、一番基本的な部分でこうしたい、こうして欲しいという注文があれば、今がその時期だと思う。

矢野委員：思ったことを説明させていただく。スライド資料24ページ「市の環境課題」抽出結果の右下の最後の箇所。「自然環境だけでなく、先端的な環境技術等を子供たちから市民が学べる機会づくり」ということだが、自然というのは次世代に残す環境というところで小学校ぐらいから始めて、市民全体の環境への関心を高めていかなければならない、ここは十分強化していただきたいと思って

いる。そして貴重な自然環境が八千代市にもあるところを知っていただく。市民の理解度というのもボトムアップしていただきたい。そういう目標も具体的にに入れていきたいと思う。

小倉議長：最後の「自然環境だけでなく、先端的な環境技術等を子供から市民みんなが学べる機会づくり」というのが意外だったのだが、普通だったら自然環境のほうで赤字が目立つ書き方になるかなと思ったが、あえて自然環境よりも、先端的な環境技術のほうを重視したような書き方になっているというのはどういう意図があるのか。

オリエンタル：既に谷津・里山アクションプラン等に基づいて子供環境教室や自然生態系に関する活動はもう実際にされている。また市民アンケートの結果、省エネ・新エネのこういった技術があるかというニーズも多いので、自然環境だけでなくメニューを増やしたほうが良いという提案になっている。

小倉議長：それなら余計に先ほどのエネルギーという項目を入れるのが、わかりやすいと思う。例えば子供たちにCO<sub>2</sub>を地下に押し込める技術を環境教育として勉強させるとか、そういうことをやらせたいのか。

矢野さんがおっしゃっているように、やっぱり八千代市の宝は自然環境だと思う。それも遠くの山の中ではなく、首都圏の中の都会でありながら、豊かな自然環境があるという点。最初の大味さんの発言にもあったように、それが八千代市の宝だと思うので、そこを守ってそのありがたさを十分知るのが大事なのだということ。

それを守っていくのが、みんなの務めではないだろうかというのが、この計画の一番言いたいことになるのかと私は思っている。特にこの締めの部分に先端技術が来たのが非常に違和感を覚えた。

オリエンタル：今言われた意見を参考に修正をする。特に先ほどSDGsという言葉が出たが、サステナブルという言葉がある。世界ではもうサステナブルからレジリエンスという言葉に変わっていて、「強靱な」というか。先ほどの防災の話とか自然、それからグリーンインフラ、その辺と絡むような地域づくりをしていけないといけない。

小倉議長：グリーンインフラは不可欠だと思う。

オリエンタル：それからエネルギーというようなキーワードをこの環境、それから地域づくりに生かすということになると、新しいエネルギーの施策を地域づくりに、観光や防災とかに生かしていくような、そういう施策ももう我が国でも進んで

いるところであるのでここに入れ込んでいく。

八千代市のより良いところを伸ばす、さらにそのためにはどういう技術を入れるというようなことについて、このページを強化したいと思う。

小倉議長：よろしく願います。他にいかがか。

楠田委員：自然の仕組みをもうちょっと利用すれば、それこそSDGsとか省エネになるのではないかと思う。

八千代市は元々の自然環境調査を精力的にやっているの、基本的な自然環境、自然の仕組みをもうちょっと細かいところも見ていただければと思う。

あと教育の問題もあったが、もう少し地域のNPOなどを活用されて発展させていけたらいい。

小倉議長：ありがとうございました。それでは、次のスケジュールをお願いします。

竹内主査：パワーポイント資料の25ページから28ページを説明。

最後28ページ、今後のスケジュール案ですが、本日から3月末までのスケジュール案で、今回の話を受けて、庁内で調整した上で第3回審議会を遅くとも年内にもう一度審議をいただく場を設けたいと思っている。後日皆様にはご案内を差し上げたい。

以下、年明けから再度調整した上でパブリックコメントを1月中旬から2月の頭に1か月間行い、そのあと庁内調整を経て3月中下旬には答申をいただきたいと思っている。

小倉議長：12月に第3回の審議会があるが、その前に資料を送っていただければと思う。

委員の皆様方も年末の忙しい時期に色々お仕事は増えてしまうと思うが、ご確認をよろしく願います。

近野委員：中旬ということだが、もう来月のことなので2つ3つ候補日を言ってもらったほうがありがたい。

小倉議長：今でなくて構わないが、日程調整を早急にお願いできるか。

竹内主査：日程については会場の関係などがあるので、今の意見を参考に決めたいと思う。

小倉議長：なるべく早く願います。

谷合委員：前回8月7日の第1回の環境審議会の資料の中で「八千代市環境基本条例の改正及び八千代市環境保全条例の制定に係るスケジュール」という紙をいただきました。今日話したのは八千代市環境保全条例なのか。

小倉議長：いえ、計画です。

谷合委員：八千代市環境保全計画の話をしていると思うが、このタイトルに出てくる八千代市環境基本条例はどうなっているのか。

小倉議長：それは審議会の「審議事項」ではなく、議題の2番目の「報告」で、これから説明がある。

石崎主査：2つの条例の改正の近況について報告させていただく。

- ・1つ目の環境基本条例の改正については、今議論いただいた環境保全計画の名称を、環境保全計画から環境基本計画に変更するという内容であったが、当計画が環境の保全に関する施策を盛り込んだ計画であることから、名称は変更せずに現状の環境保全計画のままでも影響がないということになり、環境保全条例の改正は見送ることとした。なお、谷津・里山保全計画や新エネルギー・省エネルギービジョンをこの計画に統合していくことに変更はない。
- ・2つ目の環境保全条例の制定については、前回の審議会で報告した時から庁内での協議を進めていく中で、内部調整が整わない箇所が発生しており、今年度の環境保全条例について改正を見送ることとなった。来年度以降も引き続き改正に向けて検討していくので、準備が整ったら再度事前に審議会上で報告をする方向で考えている。

谷合委員：そうすると今の環境保全計画は、将来的に環境基本条例も含めた形の保全計画なのか。

小倉議長：条例と計画は別々のもの。保全計画は、あくまでも計画、プラン。条例は国で言うと法律に当たる。色々形式的な部分などで、行政の中の調整が大変。

谷合委員：元々8月に予定されていたスケジュールより、その条例側が遅れているということか。わかりました。

小倉議長：この審議会は、そちらの条例を作ることにしては特に権限はありません。以上で本日の議題は全て終了ということでよいか。事務局に進行をお返しする。

事務局：本日の委員の皆様からの貴重なご意見やご提案等につきましては、今後の環境保全行政の参考とさせていただきます。